

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300037		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	徳島県小松島市中田町新開52番地		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、立地条件に恵まれた地域にあり、コンビニやホームセンター等も近くにありまた協力病院も隣接しており、赤十字病院もすぐ近くにあり医療的環境にも恵まれています。季節季節の行事なども行っており、利用者さんの外出などの機会も設けている。事業所内の研修や外部の研修にも積極的に言ってもらって認知症のケアや技術知識、感染症などに関する知識を身につけてもらいケアの質の向上に取り組んでいる。ボランティアや、社会人、近くの高校の福祉科の学生などの実習を積極的に受け入れて認知症について学んでもらい認知症に対して理解を深めてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に公園や大きな病院などがある、町中に位置している。開設当初より、“安心 安全 尊厳をお護りします”、“充実した生活が地域の人と共に出来るよう支援します”という理念を掲げ、地域を交えた利用者支援に取り組んでいる。2か月に1回開催する運営推進会議には、利用者や家族、関係機関の他に、地域の代表者や同一法人が運営する他サービス事業所の職員などの多様な出席者を得て、活発に意見交換を行っている。また、近隣に協力医療機関や大きい病院があり、日ごろの医療支援や緊急時の対応が適切に行えるため、利用者や家族等の安心に繋がっている。職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の表情の変化など、気づいたことを“気づきノート”に記載して、利用者の意向や希望などを職員間で共有できるようにしている。介護計画を見直す際にも、“気づきノート”で得た情報を活用し、本人本意に検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のサービス提供場でケアの統一が図れているか、また言葉使いや対応が適切にできているか理念に反映されているか、職員間で話あっている。	事業所では、開設当初より、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。職員は、理念にもとづいた支援が実施できているか、職員間で確認しつつ、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校、町民運動会、文化祭、支援学校の文化祭、福祉祭りなど参加している。幼稚園児の訪問もあり。月1回のサロンにも参加している。支援学校から実習でエアコンの掃除などに来てくれている。	事業所では、利用者とともに地域の敬老会やサロン等に参加したり、近隣小学校の町民運動会や文化祭等に参加したりして、利用者と地域住民が交流する機会を設けている。また、支援学校の実習生やボランティアの来訪も、積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生、社会人の実習の受け入れ、介護資源活用型地域リーダーの実習も受け入れ認知症について理解を深めてもらっている。又傾聴ボランティアからお話があり認知症の事や訪問の意義についてお話をさせてもらう		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者からの運営状況やサービス等の取り組みを報告、アンケート結果の開示も行い、意見等お聞きしている。参加メンバーから、質問や意見なども受けサービスの向上につなげている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、地域の代表者、行政関係者、同一法人の運営する他サービス事業所職員などの出席を得ている。事業報告や各事業所の情報交換を行い、出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席時、事業所の取り組み等伝えて意見や感想をもらっている。また困難事例等あれば出席時に相談したり、直接出向いて相談している。	職員は、市の担当窓口を訪問し、事業の報告を行うなど、顔見知りの関係を築くようにしている。制度変更や困難事例などについて相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の資料を用いて研修を行っている。拘束をしないケアができるよう職員間で話し合い拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、3か月に1回、身体拘束に関する研修会を実施している。身体拘束にあたる具体的な行為について、職員間での周知・理解を図っている。日中は玄関を開放するなど、利用者の自由な暮らしに向けて、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で身体的虐待や虐待につながる不適切な言葉やケアがないか、具体的な例などで話あっている。汚れた衣類をそのまま放置しておくこともネグレクトにあたるので常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について外部の研修などに参加している。後見人制度が必要な利用者さんがいる場合、包括支援センターや関係する身内の方と相談したうえで制度につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類に沿って説明し、説明時疑問点や不明なところがないか、お聞きしてから契約している。またリスクなどについても説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日ごろから、利用者の家族の要望等聞く機会を設けている。面会時や利用料支払い時など。又介護相談員や傾聴ボランティアの訪問時に要望等聞いてもらってサービスにつなげている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者から意見や要望などをききとっている。意見等は、“気づきノート”に記載し、職員間で共有化を図っている。家族等については、来訪時や電話の際に、意向等を確認し、それらを運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見など聞き対応可能なことは反映させてサービスの質につなげている。気づきノートの活用も行っている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の要望等を確認している。月1回のカンファレンスの際も、意見や要望などをききとっている。職員の意見等は、運営面に反映し、業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状態の把握に努めている。毎年の昇給、年2回のボーナスもあり健康診断も年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修も行っているが、外部の研修にもなるべく職員が参加できるようにして配慮している。研修報告は全員が確認、必ず観覧するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者にも運営推進会議にも出席してもらいお互いに情報交換し相互のサービスの質につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や情報で本人または、家族から生活状況の把握に努めている。サービス開始時には、本人の心身の状態や思いに向き合い職員が本人を受け入れ、より添えるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の思いや要望等聞き理解し事業所として、どこまで対応できるか説明している。利用料支払い時や面会時にも、要望等ないかお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思いを確認、本人にとってどんな支援が必要か、何ができるのか、見極めてサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の出来事の中で、共感共有し、共に生活する中で家事等一緒にすることで、支え支えあっているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月青空通信などで本人の日々の暮らしをお知らせしている。又その都度何かあれば報告することで情報の共有に努め本人と共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人にカットに来てもらっている。なじみの美容室に職員や家族と行くこともある。近くの商店に食材など職員と行っている。面会に気軽に来られるような雰囲気作りに努めている。	事業所では、利用者と一緒に食材の購入のために出かけたり、馴染みの美容院へ出かけたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。利用者の友人や知人等が、気軽に来訪できるよう雰囲気づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の間人間関係を把握し情報交換を行いすべての職員が共有し、利用者さんが、楽しく過ごせるようにし又利用者さん同士の関係がうまくいくように職員が調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や、退院後についても家族の相談や支援にかかわりフォローしている。入院時には面会などに行っている。退去後も家族の相談等に乗っている。他の事業所に移るときは情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で一人一人の思いや意向を聴きしているが、困難な場合は家族からの情報を得て本人本位のサービスにつなげている。	職員は、日ごろから、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族等から情報を得つつ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に本人や、家族関係者から聞き取るようにしている。普段の会話の中からも生活歴の把握に努め、本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態をケア記録に記載し職員間で情報共有し利用者個々の、生活のリズムを把握し本人の不利益にならないように、できることできないことを見極めて本人の有する能力が発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃のかかわりの中から意見や思いを聴き反映させながら、アセスメントを含め職員間でどのような支援が必要か、検討し介護計画の作成に生かしている。	事業所では、利用者から得た意見等を“気づきノート”に記載している。ノートの内容などを活用しつつ、職員や関係機関等と協議し、介護計画書を作成している、3か月に1回、チェックシートを活用し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状態が一目でわかるようにしている。日誌ケア記録は日常の様子がわかるように記載し情報共有ができるように気づきノートの活用で、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて支援している。高齢で車の運転が困難な家族さんに対して一週間に1回の面会時の自宅までの送迎を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや、介護相談員さん、傾聴ボランティアさんの訪問があり、相談や話相手になってくれている。又協力病院より一週間に1回訪問レクに来てくれている。年に1回ではあるが、老人会の訪問もあり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前のかかりつけ医から、協力病院をかかりつけ医にするときは、本人と家族の同意をえて納得してもらった上で、かかりつけ医の変更をしてもらっている。本人の不利益にならないようにしている。	事業所では、入居時に、利用者や家族等にかかりつけ医を確認している。週1回の往診や救急対応など、協力医療機関と連携を図り、適切な医療支援を提供している。また、他の専門科への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による訪問があり入居者さんの状態を報告又相談をしている。体調不良時には、速やかに病院受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院した時は、入居時の様子や、服薬状況等情報提供している。又ホームでの生活が困難と判断された時は、主治医や師長と相談し、本人や家族が不利益とならないように情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入居の契約時に事業所の対応について説明している。長期入居の方についても体調変化がある時は、随時家族と話し合い家族の気持ちの変化や本人の思いにも沿って支援している。昨年一人だけ看取りをしている。	事業所では、入居の段階で、重度化や終末期の対応について、利用者や家族等に説明している。心身状況の変化に応じて、家族や協力医療機関などと相談しつつ、本人本意の支援に取り組んでいる。希望に応じて、看取り支援も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている防災訓練とともに、人形をモデルにAEDの救急の訓練もしている。事故発生に備えてマニュアルの整備もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時隣接する協力病院、ケアハウスと連携できる体制を構築している。利用者参加で昼夜を想定し訓練を実施している。利用者家族さんにも参加してもらっている。	年2回、事業所では、地震や火災、津波などを想定した避難訓練を実施している。併設の他サービス事業所と連携して、実践的な訓練も行っている。備蓄品も整備し、定期的に賞味期限等の確認も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時に、大きい声で言ったり誇りを傷つけるような言葉かけをしないように話し合っている。何かをしてもらってできないことがあっても感謝の気持ちを伝え本人が誇りをもてるように対応している。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴などを把握し、人格の尊厳やプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。不適切な言葉かけや対応をしないよう、職員同士で声を掛けあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から本人の思いや希望をくみ取り実現できるように努めている。意思表示の困難な人の場合は表情や反応を見て思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の時間を大切にし朝ゆっくりしたい人は朝食をずらしたりしている。その時々々の気持ちを尊重して、一人一人のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望する人には入浴前に染めている。カットなどは、なじみのところから来てもらっている。外出時などの服装は一緒に選んだり、お化粧したい人はお化粧のお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きなもの等普段の会話から聞き献立に取り入れている。副菜の盛り付けや、食後の食器を流しまで運んでくれたりお盆拭き等のお手伝い等してもらっている。	食事の献立は、利用者の好みや季節の食材を取り入れつつ、職員が作成している。利用者とともに食材の買い出しに出かけたり、お盆を拭いたりするなど、一人ひとりのできることを手伝ってもらうことで、生活に張りがでるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事、水分量を、チェック把握している。個々に合わせた食事形態や分量にしている。食事量が少ないときは本人の好きな物や甘酒などで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りで、できる方には、自分でしてもらっている。舌苔がある人はスポンジやブラシで職員が磨いている。個々に応じて口腔ケアをしている。適宜歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成、時間や習慣を把握、トイレ誘導を行うことで失禁の予防もできている。尿意の訴えない方もチェック表の活用や動作、態度で排泄のサインをキャッチしトイレ誘導をしている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なタイミングでのトイレ誘導を行っている。パットやポータブルトイレを活用し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便の確認を行い必要時は緩下剤で調節している。食事は野菜類も多く取り入れ、牛乳、ヨーグルト等の乳製品も取り入れている。水分も十分にとってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯加減は一人一人の好みに合わせている。入浴中は会話を楽しみながら、入っているゆっくり入りたい人は最後に入ってもらっている。行事や外出などで職員の都合になっている。	事業所では、利用者一人ひとりの心身の状況にあわせて入浴できるよう支援している。入浴剤などを活用して、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温や照明の調節、就寝前のトイレ誘導等行いゆっくりと休めるようにしている。冬場希望する人には湯たんぽ等している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬情報をホールにおいてあり、いつでも必要な情報が得られるようにしている。個々の病歴の把握、副作用の有無、体調の変化等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯もの干し洗濯畳、お盆ふき、テーブル拭き、おしぼりをまいたり、衣類の毛玉取りや新聞紙でのごみ箱折り等その方の持っている能力が発揮できるようなお手伝い等してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に本人からの希望がない時でも、外食やドライブ、喫茶店に行っている。車いすの人も個別にいっている。阿波踊りも毎年行っている。気候の良いときは遊歩道散歩等に行っている。	事業所では、気候のよい日は、利用者とともに近隣を散歩したり、敷地内で日光浴を行ったりして、できる限り戸外へ出る機会を設けている。季節ごとに、花見やひな人形、阿波踊りの見物に出かけることもある。また、家族等の協力を得て、外食などの支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を自分で持っている人もいる。預かり事業所が管理している方でも外出時には自動販売機や喫茶店で自分で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聴きたい方は職員が電話をかけお話ができるようにしている。遠方の家族からメール等届いたときは本文をコピーし本人に手渡している。年賀状を出したい人には支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じてもらえるように、お雛様や5月人形、七夕飾り、お正月には門松やお花を飾っている。ホールからは遊歩道の四季折々のお花が見える。ホールの夏、冬の温度は適宜調節している。	共用空間には、季節にあわせた置物や花を設置するなど、季節感を感じることができる。掃除も行き届き、清潔感がある。窓際にソファを設置し、季節の花を眺めることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端の大きい窓のところに、椅子を置いて、外を眺めたり気の合う人とお話ができるようにしている。リビングにはソファを置いているので、テレビを見たり、談話したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具を持ってこられている方もおられる。家族さんの写真を持ってこられて筆笥の上に飾ったりしている。テレビ持ってこられ自室で見たりされている。	居室には、使い慣れた寝具や家具などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごすことができるようにしている。家具の配置などを工夫して、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室、廊下のつくりは段差のない作りで、手すりもついており安全に配慮したつくりとなっている。自室や、トイレがわからない人には、目印をつけてわかりやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のサービス提供場面でケアの統一が図れているか、また言葉使いや対応が適切にできているか理念に反映されているか、職員間で話あっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校、町民運動会、文化祭、支援学校の文化祭、福祉祭りなどに参加している。幼稚園児の訪問もあり。月1回のサロンにも参加している。支援学校から実習でエアコンの掃除に来てくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生、社会人の実習の受け入れ、介護資源活用型地域リーダーの実習も受け入れ認知症について理解を深めてもらっている。又傾聴ボランティアからお話があり認知症の事や訪問の意義についてお話させてもらう		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの運営状況やサービス等の取り組みを報告、アンケート結果の開示も行い、意見などお聞きしている。参加メンバーから質問や意見なども受けサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席時、事業所の取り組み等伝えて意見や感想をもらっている。又困難事例等あれば出席時に相談したり、直接出向いて相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の資料を用いて研修を行っている。拘束をしないケアができるよう職員間で話し合い、高速をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で、身体的虐待や虐待につながる不適切な言葉かけがないか、具体的な例等で話あっている。汚れた衣類をそのまま放置しておくこともネグレクトにあたるので常に気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後家人制度について外部の研修などに参加している。後見人制度が必要な利用者さんがある場合、包括支援センターや関係する身内の方と相談したうえで制度につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明し、説明時疑問点や不明なところがないか、お聞きしてから契約している。又リスクについても説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から、利用者の家族の要望等聞く機会をもっている。面会時や利用料支払い時等。又介護相談員や傾聴ボランティアの訪問時に、要望等聞いてもらってサービスにつなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見等聞き対応可能ことは反映させてサービスの質につなげている。気づきノートなどの活用も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状態の把握に努めている。毎年の昇給、年2回のボーナスもあり健康診断も年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修も行っているが、外部の研修にもなるべく職員が参加できるように配慮している。研修報告は全員が確認、必ず観覧するようにしてサインをしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者にも運営推進会議出席してもらいお互いに情報交換して相互のサービスの質につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や情報で本人または、家族から生活状況の把握に努めている。サービス開始時には、本人の心身の状態や思いに向き合い職員が本人を受け入れ、より添えるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時、家族の思いや要望等聞き理解し事業所として、どこまで対応できるか説明している。利用料支払い時や面会時にも、要望等ないかお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思いを確認、本人にとってどんな支援が必要か、何ができるのか、見極めてサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の出来事の中で、共感共有し共に生活する中で家事等一緒にすることで、支え支えあっているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月青空通信などで本人の日々の暮らしをお知らせしている。又その都度何かあれば報告することで、情報の共有に努め、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にカットに来てもらっている。なじみの美容室に家族や職員と行くこともある。面会に気軽に来られるような雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の人間関係を把握し情報交換を行い、すべての職員が共有し、利用者さんが楽しく過ごせるように、又利用者さん同士の関係がうまくいくように、職員が調整役になって支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や、退院後についても家族の相談や支援にかかわり、フォローしている。退去後も家族の相談などに乗っている。他事業所に移るときは情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で一人一人の思いや意向をお聞きしているが、困難な場合は家族からの情報を得て本人本位のサービスにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に本人家族、関係者から聞き取るようにしている。普段の会話の中からも生活歴の把握に努め、本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態をケア記録に記載し職員間で情報共有し利用者個々の、生活のリズムを把握し本人の不利益にならないように、できることできないことを見極めて、本人の有する能力が発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃のかかわりの中から意見や思いを聴き反映させながら、アセスメントを含め職員間の中でどのような支援が必要か、検討し介護計画の作成に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状態が一目でわかるようにしている。日誌ケア記録は日常の様子がわかるように記載し、情報共有ができるように気づきノートの活用で、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて支援をしている。退去後も病院受診の付き添いや家族さんの送迎等支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、介護相談員、傾聴ボランティアさんの訪問があり、相談や話相手になってくれている。又協力病院より一週間に1回訪問レクに来てくれている。年に1回ではあるが老人会の訪問もあり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前のかかりつけ医から、協力病院をかかりつけ医にするときは、本人と家族の同意を得て納得してもらった上で、かかりつけ医の変更をしてもらっている。本人の不利益にならないようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による訪問があり利用者さんの状態を報告又相談等している。体調不良時には、速やかに病院受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した時は、入居時の様子や服薬状況等情報提供している。又ホームでの生活が困難と判断された時は、主治医や師長と相談し、本人や家族が不利益とならないように情報交換している、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居の契約時に事業所の対応について説明している。長期入居の方についても体調変化がある時は、随時家族と話し合い家族の気持ちの変化や本人の思いにも沿って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている防災訓練と共に、人形をモデルにAEDの救急訓練もしている。事故発生に備えてマニュアルの整備もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時隣接する協力病院、ケアハウスと連携できるタイセイを構築している。利用者参加で昼夜を想定し訓練を実施している。家族さんにも参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時に、大きい声で言ったり誇りを傷付けるような、言葉かけをしないように話あっている。何かをしてもらってできないことが、あっても感謝の気持ちを伝え本人が、誇りを持てるように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から、本人の思いや希望を汲み取り実現できるように努めている。意思表示の困難な人の場合は表情や反応を見て思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の時間を大切に、朝ゆっくりしたい人には朝食をずらしたりしている。その時々気持ちを尊重して一人一人のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望する人人には入浴前に染めている。カットなどはなじみのところからきてもらっている。外出時などの服装は一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな物等普段の会話から聞き献立に取り入れている。食後の食器を流しまで運んでくれたり、お盆拭き等のお手伝いをしてきている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量水分量を、チェック把握している。個々に合わせた食事形態や分量にしている。食事量が少ないときは、本人の好きな物や甘酒などで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りで、できる方には自分でしてもらっている。舌苔がある人は、スポンジブラシやブラシで職員が磨いている。個々に応じた虚空ケアをしている。適宜歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成、時間や習慣を把握 トイレ誘導を行うことで、失禁の予防ができて いる。尿意の訴えのない方もチェック表の 活用や、態度で排泄のサインをキャッチし トイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	チェック表で排便の確認を行い必要時は、緩 下剤で調節している。食事は野菜類も多く 取り入れ牛乳、ヨーグルト等の乳製品も取り 入れている。水分もじゅぶんにとってもらっ ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯加減は一人一人の好みに合わせている 。入浴中は、会話を楽しみながら入ってい る。ゆっくり入りたい人は、最後に入っても らっている。行事や外出などで職員の都合 になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	居室の室温や照明の調節、就寝前のトイレ 誘導を行いゆっくりと休めるようにしている。 冬場湯たんぽを希望する人には、湯たんぽ をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬情報をホールに置い てあり、いつでも必要な情報が得られるよ うにしている。個々の病歴の把握、副作用の 有無、体調等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯もの干し洗濯畳、お盆拭き、テーブル 拭き、おしぼりを巻いたり、衣類の毛玉取り や新聞紙でのごみ箱折り等その方の持って いる能力が、発揮できるようなお手伝い等 をもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるよう に支援している	特に本人からの希望がない時でも、外食や ドライブ、喫茶店にしている。車いすの人 も個別に行っている。阿波踊りにも毎年い っている。家族さんもお誘いしていている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持ってこられている人もいます。お金を預かり事業者が、管理している方でも外出時には自動販売機や喫茶店で自分で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聞きたい方は職員が、電話をかけお話ができるようにしている。年賀状等出したい人には支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じてもらえるように、お雛様や5月人形、七夕飾り、お正月には門松やお花を飾っている。ホールからは遊歩道の四季折々ののお花が見える。ホールの夏、冬のエアコンの温度は適宜調節している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端の大きい窓ところに、椅子を置いて外を眺めたり、気の合う人とお話ができるようにしている。リビングにはソファを置いているので、テレビを見たり、談話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員ではないが、本人が使用していた椅子や机等もってこられて使っている。又家族の写真やテレビをもってこられて、自室で見たりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下のつくりは、段差のない作りで、すりもついでおり安全に配慮したつくりとなっている。自室やトイレがわからない人には、目印をつけてわかりやすくしている。		